

さんぽMAP

in 北浦

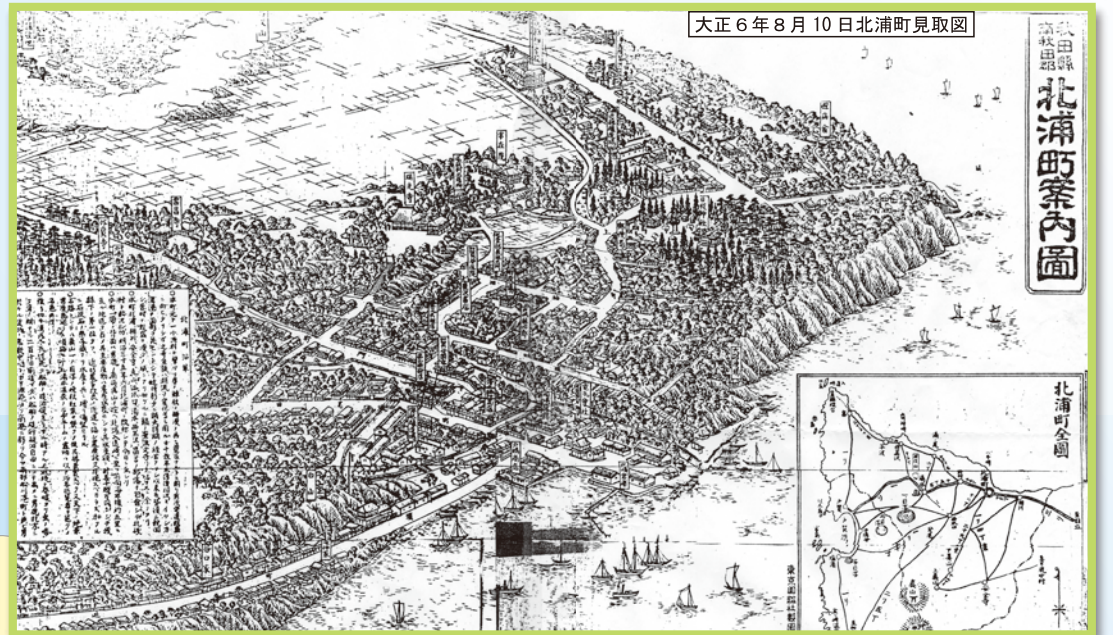
(北浦本町・相川・野村)

●北浦地区のあゆみ●

北浦地区は明治22年に北磯分村、明治24年には北磯村となり、その後明治35年に北浦町となりました。そして昭和30年に船越町とともに、男鹿市へ合併して現在にいたります。かつては男鹿半島内でも有数の人口をかかえ、漁業(ニシン、ハタハタなど)を中心に経済的にも豊かな地域でした。バス通り沿いには多くの店が立ち並び、買い物客で大変賑わいをみせました。

北浦地区の人口変遷(男鹿市史参照)

	北浦	船川港(参考)
明治34年	6,165人	4,496人
大正14年	8,746人	8,090人
昭和3年	7,102人	8,150人
昭和14年	6,466人	7,418人
昭和25年	8,345人	16,865人
昭和30年	8,846人	15,377人
昭和55年	6,857人	12,928人
平成23年	3,252人	7,405人



1 きたうらしみん 北浦市民センター

北浦町の頃は役場として機能していました。昭和50年頃までは、結婚式場としても利用され、多くの夫婦がここから誕生しています。現在の建物は昭和54年に建設されました。



2 きたうらじんじや 北浦神社

昔は日枝神社といわれ、安東氏や佐竹氏の寄進をうけていました。明治44年に、北浦地区内にあった五つの神社(神明・白山・菅原・保食・三吉)を合祠して北浦神社となりました。



かしまつ 鹿島祭り (市指定無形民俗文化財)



北浦神社の祭典と同日の7月14日に行われます。鹿島様は漁師の神様とされていますが、他に五穀豊穡・家内安全・商売繁盛などの信仰もあります。また、菅江真澄の記述から地震の神様としても信仰されていたようです。

3 あまご ねじろう 雨乞いの寝地蔵

寝地蔵と呼ばれている板碑で、普段は横たえてあります。昔は日照りが続くと、碑を立てて田の泥を塗り、雨乞いをしたといわれています。この寝地蔵については菅江真澄が『男鹿の春風』の中に記しています。



4 いたび 板碑 (市指定有形文化財)

鎌倉時代から室町時代にかけて全国各地で作られた供養塔です。この板碑には梵字や地蔵、更に永和4年(1378)の年号が刻まれています。この板碑の表記は全国的にも類似した例が少なく、大変珍しいとされています。



5 うがじんじや 宇賀神社 (野村)

大正時代に湯本にある星辻神社から御霊を分霊して建てられた神社です。五穀豊穡や大漁祈願、家内安全の神様として信仰されています。



6 じょうざいん 常在院

臨済宗のお寺です。寛正年間(1460-66)に開創され、安東氏の庇護をうけました。江戸時代の終わりに作られた梵鐘があり、NHKの『ゆく年くる年』で除夜の鐘として放送されたこともあります。



7 すいこうじ 瑞光寺

臨済宗のお寺です。開創は不詳ですが、康永年間(1342-45)には信仰されていたと言われています。境内には樹齢1000年以上といわれる市指定天然記念物の大ケヤキや北浦出身の文化人高藤鹿山(1866-1943)の顕彰碑があります。



8 うんしょうじ 雲昌寺

曹洞宗のお寺です。開創は不詳ですが、慶長10年(1605)の2代目の和尚についての記録が残されています。古仲清躬の時代に土地と材木を提供して建築されたといわれています。6月から7月にかけて境内に咲くアジサイが見どころを迎えます(座禅体験もおこなっています)。



9 きゅうほうじ 休寶寺

真宗のお寺です。開創は不詳ですが、明治18年(1885)当時北浦の有力者であった田沼慶吉が中心となり真宗寺院の北浦誘致に働きかけ、秋田市久保田から北浦へ移転しました。



10 めおとまつ 根上りの夫婦松

昔は道標の役割を果たしていたといわれています。地面にむき出しになった根の部分が互いにしっかりと絡み合っている姿が、夫婦で支え合っている様子に似ていることから「夫婦松」と呼ばれています。



さの 佐野のお堂

休寶寺の裏には天明の飢饉(1782-1788)の時代、食べ物盗んだ罪で生き埋めにされた佐野吉が祀られています。地元では「佐野さん」として関係者が月に1度供養しています。今では受験の合格祈願など勝負の神様として信仰されています。



- ①北浦市民センター 650m
- ②北浦市民センター 80m
- ③雨乞いの寝地蔵 1200m
- ④板碑
- ⑤常在院 80m
- ⑥瑞光寺 100m
- ⑦雲昌寺 100m
- ⑧休寶寺 100m
- ⑨根上りの夫婦松

続きは裏面へ